

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

高知県立大学共通教育専門委員会

② プログラムの自己点検・評価結果

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	全学部学生のプログラムの履修・修得状況を学習支援ポータルシステムでデータ化し、履修状況を分析することで、学部毎の履修状況を把握し、委員会で共有し、履修における課題や改善点を確認している。
学修成果	学期末に全学で行う「学生による授業評価アンケート」の【授業外での学習状況】【あなた自身について】の項目および自由記述欄、加えて授業内で課しているレポート課題やワーク等の結果を分析し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートを実施しており、【あなた自身について】の目標達成、関心の高まりの項目 から、学生の理解度を分析している。令和5年度は、ITリテラシー履修者233名のうち132名が回答し(回答率56.7%)、目標達成については「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせて66.7%であった。関心の高まりは72.0%であった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートを通じて、履修した学生の自由記述では「急速にデジタル化が進む社会状況を考えて、後期のデータサイエンス入門も含めて来年度も開設すべき授業だと思う。」「情報関係の知識があまりない私でも、分かるような丁寧な説明があった。」「興味のある分野ではなかったが、コンピューターやIT関係に関する知識がない人や苦手とする人に向けてもわかりやすい説明や授業内容でした。」「ITの難解な部分に触れるのかと思いきや身構えていたが、日常に仕える知識や簡単なスキルを学ぶことができたので満足のいく講義であったと感じる。」などの意見があり、履修指導においても紹介していく予定である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和4年度に選択科目として開設し、履修指導により履修者数、履修率の向上を各学部教務委員と連携して推進してきた。令和6年度より共通教養教育科目を見直しデータサイエンス科目群として「ITリテラシー」「データサイエンス入門」を位置づけ教育プログラムを変更する予定である。引き続き、全学的に学生の履修を推進する。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和4年度からの開設であり、まだ卒業生は出ていないため、現状では評価はできないが、今後継続的に進路等の調査や卒業生調査、卒業生の就職先からの意見聴取などを実施することを検討している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	会員となっている「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム四国ブロック」での会員校間の交流や同一法人が運営する高知工科大学のデータ&イノベーション学群との交流などにより、産業界からの意見を得られることが見込まれる。また、産業界との交流機会において、本プログラムの内容・手法等について意見をいただき、さらなるプログラムの充実に努めていきたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	ITリテラシーでは、基礎的なICT技術のしくみに触れながら、ICT社会の現状や諸問題に対して、広い視野で学び続け対応していけるよう、法律やオープンソース、事故や紛争などについても取りあげている。データサイエンス入門においては、数式の説明ばかりではなく、概念的な内容の説明は担当教員が考案した図を用いてイメージ化できるようにし、実社会で、統計分析をする能力を持つことの必要性や大切さを感じられるような展開を行っている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	授業における学生の反応・理解について検討を重ねている。また学生が、演習を通してデータ分析の操作体験をし、答えを求め、その答えから判断するというプロセスを経験し、実社会で活用するための基礎力を身につけられるよう工夫をしている。